

SG講演会②

日時 平成28年4月20日(水) 5校時(14:05~15:05)

場所 丸亀高校 第2体育館

対象 丸亀高校 1年生280名(欠席1名)、教員16名

講師 森 茂 氏 (今治造船株式会社 常務取締役)

小山 芳之 氏 (四国化成工業株式会社 経営企画室長)

演題 「地方の強みを生かした地方創生・世界戦略」

内容等

今治造船の森氏からは、造船業や船舶産業の特色について、「地方の強みを生かす」「世界戦略」についてなどの内容でご講演いただいた。船は、安全性とエネルギー効率がよく、耐用年数が高いことが長所であり、船による輸送は、日本の輸出入貨物の99.7%を占めていることに生徒は驚いた。船舶産業は、「労働集約型産業」「周辺に関連産業が不可欠」であり、瀬戸内に集約された9造船所とサプライチェーンが構築することで、労働力の確保、ジャストインタイムで資機材の確保などが実現できていることに、生徒は「地方の強みを生かす」ということを理解できたようである。また、「世界戦略」として、常に設備投資を行い、船主のあらゆるニーズに応えられるようにしており、現在、丸亀工場に約600mの大型ドックを建設中であることがあげられた。また、船主の4割、オペレーターの7割が海外であり、英語での対応や契約書・マニュアルの作成などが必須のため、社内での英語教育に力を入れていることもあげられた。技術面では、船型・省エネ船開発、自動化・ロボット化などへの取り組みもあげられ、生徒は、身近にある企業が世界的な市場で活躍していることに驚きと誇りを感じたようである。



四国化成の小山氏からは、会社の歴史や世界のトップシェアを占める製品の紹介に続き、四国化成の考える「グローバル化」についてなどの内容でご講演いただいた。二本柱となる化学品事業と建材事業において、化学品は海外売上比率が50%超で、タイヤの生産に必要な不溶性硫黄や電子機器で使われるプリント配線板の防錆剤等では、世界トップクラスのシェアを占めているとのことであった。生徒は、地元丸亀で世界のトップシェアの製品が作り出されていることや商品の売買取を世界規模で捉えていることに驚いたようである。また、「グローバル化」においては、英語はコミュニケーションのための道具であり、英語ができだけでは不十分である。大切なことは、歴史、政治経済、文化、芸術などの教養を身に付けること、さらに、様々な分野で自分を磨くことであるということに、生徒は「グローバル」に活躍するために何が必要であるかを理解できたようである。



生徒の主な感想

- ・身近なところにも、世界的な市場で活躍している会社があると知って驚いた。
- ・瀬戸内海を中心とした造船業なので小さなところかと思っていたが、世界中とつながってトップシェアをほこっている所がまさにグローバルだと思った。
- ・地域の環境に適した事業を行ったり、大手が扱わない事業を行ったりすることで、地方でも世界に目を向けて活躍していることが分かった。
- ・視野を世界に広げ、高い技術力で世界のニーズに応えているところがすごいと思った。
- ・地域を発展させるとともに、世界で役立つものを作るのは素晴らしいと思った。
- ・地域にあった方法をとることが一番の近道なのだと思う。そのために、もっと自分の住んでいる町を知りたいと思った。・周辺のものや人と連携するなど、地域を生かすことをしたい。
- ・地方創生にグローバルな視点を生かすという新たな発想に納得できた。
- ・日本の会社が海外に多く進出していると知って、英語力を身に付けなければと思った。